

〈史料紹介〉

## 車返霊場関係資料

望 月 真 澄

車返霊場（現在日蓮宗車返結社）は、静岡県裾野市深良一六五七―二にあり、日蓮宗の教会結社組織として存在している。霊場における堂宇の中心となる祖師堂には、掛幅・絵馬・仏像・仏具が、境内には墓標等が護持・安置されている。掛幅の一部は毎年八月に修される虫干し法要の折りに堂内に掛けられるが、静岡県中部宗務所の所管になってから日蓮聖人筆と伝えられる曼荼羅本尊以外の掛幅等を管見することはなかった。今回、車返霊場の信徒小林義生氏と静岡県中部宗務所のご厚意により、これらの資料を拝見する機会を得たので、ここに紹介してみることにした。

信仰関係資料として曼荼羅本尊が多く所蔵されるが、中でもこの地域に存在する大題目講に授与されたものが多い。特に、身延久遠寺八十四世日圓、窪之坊歴世、林蔵坊歴世の曼荼羅本尊がみられる。これらの被授与時期は、昭和二十年代であり、この時期に身延山との信仰を介した関係を構築していったものと考えられる。曼荼羅本尊や講中本尊は、講員の名前や居住地が記され、講の中心メンバーの存在が明らかにされる。また、墓標の中には、最福（復）寺時代のものがあり、日蓮聖人御一代記絵馬には、日蓮聖人の誕生から入滅に至る場面とその施主名が記され、聖人伝や奉納者の地域分布を知るのに役立つ。絵の作者は、歌川国秀で、静岡県東部地域で活躍した浮世絵師の一人である。

車返霊場関係資料（望月真澄）

現存する額は四十四点であり、火災や盗難等によって失ったものもあると考えられる。そこで、現存する額を日蓮聖人御一代記に併せて並べ替えたが、聖人伝の中であまり取り上げられていない場面もあるため、順番はおおよそ並び替え、番号を付した。よって、日蓮聖人伝における正確な順番は、他の聖人伝と比較し、検討することが必要とされるが、これについては、今後の課題としたい。

なお、車返靈場中央に安置される祖師像の素材は、唐銅であり、重厚感のある祖師像である。この祖師像は、明治二十五年より車返祖師堂の礼拝仏として信仰されてきた像である。この像がこの度の史料調査で、富士山頂上に安置されていた祖師像であったことが明らかとなった。<sup>3)</sup> 銘文をみると、天保十二年(一八四二)六月吉辰とあり、江戸時代後期のもので、須走東口神主小野大和が発願主、江戸の伝馬町講中が本願主となって奉納されたものである。<sup>4)</sup> これは、富士信仰と祖師信仰を知るための貴重な資料群といえよう。

註

- (1) 車返靈場の護持とこの絵馬の寄進者等については、拙稿「日蓮宗における宗門史跡の顕彰護持について」車返靈場の事例」(小松邦彰先生古稀記念論文集「日蓮教学の源流と展開」(山喜房佛書林、平成二十年三月刊行予定)を参照されたい。
- (2) 日蓮聖人伝を画いた国秀は、沼津市蓮窓寺、土肥清雲寺といった日蓮宗寺院の日蓮聖人伝額に画いており、今後の調査が必要とされる。また、金桜神社(沼津市)の絵馬(明治四十年十一月吉日、東組・西組両綱中が寄進したマゲロの豊漁場面)を画いており、静岡県東部地域においては注目される絵師であったと考えられる。
- (3) 富士山と日蓮聖人とのつながりや車返靈場の護持に関しては、中外日報平成二十年六月二十日号に「富士山信仰と法華信仰が融合」と題して発表したので参照されたい。
- (4) 祖師像と富士山信仰との関係については、日本宗教学会第六十七回学術大会で「富士山信仰と法華信仰」と題して口頭発表し、平成二十一年「宗教研究」三五九号(学術大会特集号)にその要旨が掲載される予定であるので参照願いたい。

【凡例】

史料の翻刻作業にあたっては、原史料の体裁を尊重しつつも、読解の便を考慮して、以下のように改めた。

- 一、漢字は原則として常用漢字に改めた。ただし、特に必要と認められる場合については原史料のままとした。
- 一、字体は人名・地名等の固有名詞を除いて、常用漢字のあるものはこれを使用し、異字・俗字・略字は正字原則として常用漢字に改めた。

- 一、虫損・破損・汚損等により判読できない場合、字数が判明する場合は□□□で示し、字数が判明しない場合は「」で示し、その旨を（）で肩書に注記した。

- 一、貼り紙は、その旨を（）で肩書に注記した。

- 一、車返結社所蔵資料を仏像・掛幅・仏具・絵馬・金石文に分けて紹介した。

一、史料閲覧に際して、車返霊場の宗教法人としての責任者・日蓮宗静岡県中部宗務所深澤尊明所長をはじめとする宗務所役職員の各聖、霊場の実際の管理者小林義雄氏ご夫妻には度重なる調査にもかかわらず、たいへんお世話になった。この場を借りて、その学恩に謝する次第である。

【仏像関係】

- 1 唐金祖師座像 一軀 (像高三五・〇×四〇・〇×二八・〇cm)

(台座二三・五×五一・二×三三・五cm)

(台座正面) 江戸

車返霊場関係資料(望月真澄)

車返靈場関係資料（望月真澄）

（台座正面左） 東住

鑄工山城津桂

（台座左側面） 駿州須走東口神主

発願主 小野大和

同妻喜埜女

織右衛門

江戸伝馬町講中

本願主

森田源右衛門

牧野清右衛門

伊澤平治郎

山口十郎兵衛

高橋卯兵衛

熱田金兵衛

安藤治右衛門

中川加兵衛

沙門 善勇



仏像関係1 祖師像（正面）

同世話人

細屋宇兵衛

塗師與四郎

東向庵安兵衛

大和田兼吉

両角定治郎

金見吉五郎

龜田屋直吉

小野吉五郎

(台座右側面)

奉納

富士山頂上

安置

日蓮大菩薩

永代頂上地所料

金三十拾兩

右者大宮淺間

社務令奉納者也

車返靈場關係資料(望月真澄)



台座右側面

車返靈場関係資料(望月真澄)

維時天保十有二年辛丑

年夏六月吉辰日

発願主

小野大和

本願主 江戸伝馬町講中

世話人 同九箇所講中

(台座背面)

本願主

右九箇ヶ所

傳馬町講中

世話人連名

世話人

日本橋講中

木具屋平治郎

本石橋講中

萬屋万右衛門

両国東西講中

糸屋米八

神田講中

千歳七五郎

芝御蓮台講中

松本長蔵

小石川御日傘講中

飛鳥屋彦四郎

新吉原講中

大黒屋亀右衛門

松村萬吉



台座背面

芝口講中  
駒込講中

市口清五郎

萬屋仁兵衛

生麦屋熊吉

乗物屋八兵衛

橋屋長藏

江島屋平吉

江戸総講中銅札施入面々

谷津氏

聖尊院

(胎内文書)

1 版経 一卷 (八・九×cm)

(奥書) 京四条通長刀鉾町

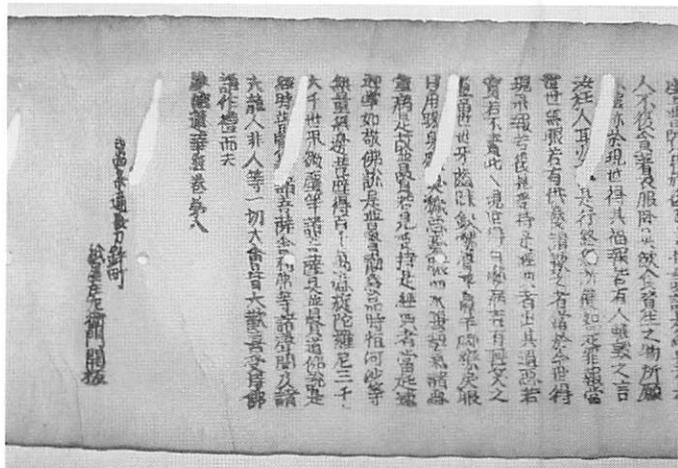
紙屋庄右衛門開板

2 銅板御守札 (九・三×二・四cm)

(1) 戸栗甚四郎

娘さく

車返靈場関係資料(望月真澄)



1. 版経 (卷末)

(2) 遠州屋

平吉

(3) 遠州屋

きく

盤造  
いく

(木札銘文)

(表面) 如日月光明 能除諸幽冥

奉遷座銅像日蓮大菩薩

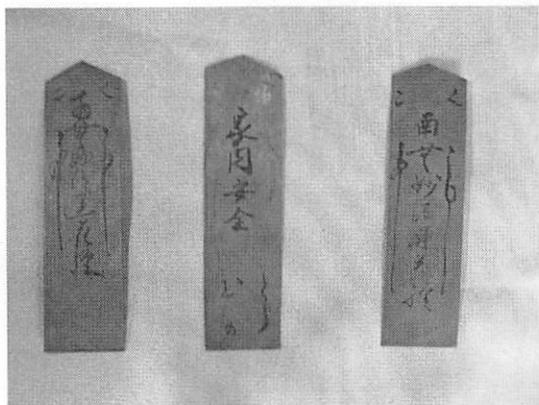
此人行世間 能滅衆生闇

(裏面) 明治二十五年壬辰年

陰曆八月十二日遷座供養

讓請主 小林由太郎

世話人 室伏安平



2. 銅板御守札(表)

【掛幅關係】

1 身延林蔵坊三十七世日情上人曼荼羅本尊 一幅(七七・九×三九・〇cm)

(右) 維時昭和十八年十月十二日為祈願唱題修行記念本尊也

(中央) 常在院

身延 日情(花押)

三十七世

(左) 授与之駿東郡中部一同大題目講員祈家内安全者也

2 身延林蔵坊三十八世日敬上人曼荼羅本尊 一幅(一〇四・六×五八・〇cm)

(右) 維時昭和貳拾貳稔拾月拾參日甲陽身延山於謹写

(中央) 常在院

三十八世日敬(花押)

(左) 授与之祈為国殉死靈供養静岡岡県駿東中部大題目講者也

右一段目 右二段目 右三段目 右四段目 右五段目 右六段目

西尾尻 小林道弘 湯山伊太郎 高橋恵明 川嶋胤雄 羽田秀雄

小林茂 小野正司 井上太本 勝又富士夫 前田 智 林 誓

小林芳雄 勝又仙一 土屋 廣 高橋 学 渡邊利男 枚本 茂

小林 勝 小野茂一郎 鈴木甚作 新田 河口 翁 平田 一

車返靈場關係資料(望月真澄)

車返靈場関係資料 (望月真澄)

小林幸作	茅間安次	荻田芳雄	志村 <sup>(貼紙)</sup> 栄	勝又由男	町震
小林正雄	茅間 泉	原 凶	土屋幾太郎	広瀬要一	渡邊岩男
小林岩作	茅間津男	勝又 栄	土屋健吾	切久保	小澤一夫
勝又 守	小野正雄	勝又三明	土屋 中	宮崎美斎	大庭国夫
塩川喬一	前田个雄	勝又正孝	青木喜久治	松井次雄	野際修治
小野暢男	塩川磯繁	広瀬政治	土屋繁保	加藤 茂	大庭 薫
小林桂作	岩波	勝又幸雄	土屋茂信	加藤 忠	藤井英一
			小泉雪造		
右七段目	右八段目	右九段目	右十段目	右十一段目	右十二段目
古屋重夫	鈴木 豊	杉山仁司	高橋吉兼	石井壽信	中西高慶
井草春俊	原木銀作	杉山菊雄	二本松	植松栄一郎	今岡忠三
志村三郎	杉山富次郎	大島良一	中川義朗	古見 實	久保田武治
野際菊次郎	杉山廣作	大庭敏男	梶開太郎	稻 光夫	久保田文次
植松伊作	杉山 勲	大庭柳作	杉山繁雄	梶 滋直	中西和十郎
松井喜次	日吉親則	久保 榮	杉山喜久雄	梶 泰	中西三郎
佐野	植松 茂	菊地銀次郎	富岡弘之	斉藤正二	細溝正一

梶原定雄	鈴木留次郎	大塚真平	塩崎本作	渡邊二雄	鈴木 讓
木内 宏	徳田 亨	永田長男	渡邊義信	塩崎頼春	鈴木 明
永田一枝	杉山 實	永田正五	杉山達男	市川 昇	市川久義
荻野元次	日吉幸雄	杉山忠雄	杉山春雄	中西親雄	山川泰司
右十三段目	右十四段目	右十五段目	右十六段目	右十七段目	右十八段目
本茶	杉山幸雄	和田 重	高城善作 <small>(貼紙)</small>	法界万靈供養	
山本 茂	杉山 勇	杉本勝美	本杉安太郎	杉山俊夫	
山本義一	高田竹雄	柏木 巖	室伏 計	杉山 勇	
小澤徳雄	高田次雄	武信 恒	杉本良一	杉山松夫	大森満悦
庄司文次郎	高田太一	大庭政夫	杉山武夫	遠藤茂作	柏木一郎
柏木政吉	芹沢伊作	勝又久雄	川村勢一	牧野駒男	片山猛良
庄司政夫	高梨平二	木下源一	三ツ石勝巳	勝又佳成	井出銀作
橘 久雄	高梨米三	杉本静夫	二ノ宮清	本杉 馨	志村 栄
庄司貞雄	高梨正夫	佐野好一	勝又吉房	柏木栄治	杉山眞吾
渋谷森信	芹沢安彦	今村金市	松樹 明	野知藤造	志村清次
柏木久雄	二ノ宮淳	内田春雄	大庭正意	野知 貞	勝又賢次

車返靈場關係資料(望月真澄)

左一段目 左二段目 左三段目 左四段目 左五段目 左六段目

和市

高内 岩田 茂 塩川友保 小林 護 勝又重利 高藤(貼紙) 茂

持田勝代 杉本忠行 杉本澄芳 鍛冶島光 大庭 司 松井文雄

持田巳雄 尾尻 塩川 保 鎌野□□ 渡邊 睦 横山 登

勝又 勲 前田文男 上須 武井重治 渡邊 守 井澤正六

宇田川喜好 勝又 保 勝又國雄 藤森好明 室伏 泉 松井 勇

岩田孝一 小林岩作 小林豊次郎 勝又 同 渡邊富秋 広瀬種一

小林三郎 塩川 忠 小林宣替 室伏 仁 遠道原 大庭五朗

武藤利一 小野 茂 小林一男 室伏千秋 増田静男 井澤誠一

宇田川一男 杉本 一 勝又次夫 室伏信雄 増田 正 南堀

杓間義次 前田健一 勝又央益 今井静雄 石井壽久 大庭玄一

岩田春吉 加藤直三 勝又三夫 志村 勝 増田頼房 広瀬友一

左七段目 左八段目 左九段目 左十段目 左十一段目 左十二段目

広瀬 孝 松浪良雄 市野 豊 高草慶吾 勝又貞治 井澤敏夫

大庭重雄 室伏甚作 原多根夫 市川栄次郎 勝又 操 井澤大吉

大庭正巳	長谷川和十	室伏 豊	勝又吉房	鈴木永作	杉山菊雄
石脇	市野 勇	河内大作	高村賢固	山本 勉	杉山 勇
大庭 孝	杉山武夫	公文名	土屋 明	市川孝一	杉山義夫
鳥澤源吾	原 繁雄	氏原 豊	久保和男	中丸	芹澤敏夫
鳥澤正大郎	室伏 隆	渡邊 勇	滝頭	長田義清	柏木富雄
杉山嘉一	勝又 正	渡邊茂平治	清水重治	芹澤 勲	芹澤 茂
原 一雄	杉山金吾	高村 臣	山本俊次	高田國義	山口 栄
久根					
長谷川武夫 <small>(註 眞)</small>	勝又桓志	高草喜作	峯川知一	芹澤智恵	芹澤 實
勝又良夫	市野松夫	高村盛孝	山本 正	橋 茂明	横山鳥雄
左十三段目	左十四段目	左十五段目	左十六段目	左十七段目	左十八段目
高田 武	小林繁作	市川貞夫	鈴木秀雄	高村秀雄	小松正雄
柏木文次	松樹卿三郎	鈴木恒行	志村久雄	高村金吾	安藤義昌
芹澤源次郎	服部義一	柏木 幸	麦塚	長田十四男	加藤勝一
服部徳富	森島精一	増田 正	飯塚 豊	勝又富夫	鈴木大正
芹澤茂作	江本 肇	勝又勝美	遠藤勝経	中川 正	勝又正夫

車返靈場関係資料(望月真澄)

車返靈場関係資料(望月真澄)

山田 貴 清水 正 村上清一 高梨賀織 茅間勸次郎 大庭松雄

平松

杉山若三郎(山根) 清水正志 鈴木春雄 勝又 智 井草光治(山根) 小見山泉

服部博文 二ノ宮康徳 芹澤伊三郎 柏木植一 近藤正美 土屋美佐恵

富田育雄 古屋英作 浅田重夫 山田織作 勝又信一

大塚元照 中山昇一 鈴木貫一 勝又正信 勝又好太郎

加藤規矩 小野善吉 木下静雄 柏木重□ 有縁無縁之諸靈位

(裏) 駿東中部大題目講中 社長久根室伏安太郎 副社長上丹小林貞 會計新田勝又利吉 會計久根松浪助太郎元老

和市西山忠吉 元老佐野梶原新吉 元老平松宮原藤太郎 世話人神山小林常次郎 同原勝又岩蔵 同原勝又栄次郎

同須釜勝又嘉十郎 同新田土屋為三郎 同切久保広瀬佐太郎 同切久保一之瀬勝太郎 同町田岩本為次郎 同町田芹

澤源次郎 同麦塚飯塚常次郎 同本茶庄司みね 同彦上庄司きわ 同尾尻勝又さく 同石脇大庭みわ 同岩波青木れ

ん 同南堀大庭てい 同平松飯塚よし 同公文名渡邊かね 同公文名勝又ふさ 同和市土屋あき 同佐野杉山じゅん

(箱表書) 国難殉死者供養本尊箱 寄贈者久根 室伏安太郎

3 身延林蔵坊三十八世日敬上人曼荼羅本尊(数珠曼荼羅)一幅(五四・二×三八・一cm)

(右) 維時昭和廿歳拾月拾参日奉謹写

(中央)

身延山

日敬(花押)

常在院

(左)

授与静岡縣駿東郡中部題目講中員為信力堅固也

4 伝日蓮聖人曼荼羅本尊(紺紙金泥)一幅 (一〇二・四×五四・八cm)

(左)

明治四十一年二月二十一日故柳澤文溪先生第二十五回認追福供養之文信院行実日忠居士奉謹写之

(右)

天長地久国土安穩五穀豐穰宗門繁榮駿東中部題目講家運永久信力増進現安後善異体同心祈者也矣

5 身延山八十四世日圓上人曼荼羅本尊 一幅 (七七・〇×三七・八cm)

(右)

維時昭和二十年一月吉祥於棲神閣奉図之

(中央)

身延山

日圓(花押)

八十四世

(左)

授与之祈静岡縣駿東郡中部身延山題目講中各員現安後善者也

6 窪之坊三十九世本応院日勇上人曼荼羅本尊 一幅 (七六・六×三三・二cm)

車返靈場關係資料(望月真澄)

車返靈場關係資料（望月真澄）

（右） 維時昭和四十七年十二月吉祥日身延窪之坊仏燈本応院日勇奉図之者也

（中央） 日蓮在御判

（左） 授与之祈駿東中部大題目講々中各家内安全者也

（下部） 發起人 小林由太郎 室伏孫七 飯田友吉 一ノ瀬清次郎 古田民十郎 鈴木嘉十郎 今関九平 歴代会

長 初代小林由太郎 二代一ノ瀬清次郎 三代勝又安太郎 四代林信次郎 五代室伏安太郎 六代小林貞

七代勝又利吉 八代勝又栄次郎 九代勝又利吉 十代宮原重太郎 十一代小沢栄□

7 鬼形鬼子母神画像（木版着色） 一幅（五八・九×二二・七cm） 幕末・明治時代

（註） 中山法華経寺百十世日正上人開眼

8 高祖日蓮大菩薩御涅槃拜図（印刷） 一幅（四三・二×五四・四cm）

（註） 明治二十九年（一八九六）九月三日 池上大坊本行寺版

9 日蓮聖人曼荼羅本尊（木版刷） 一幅（五七・四×二九・四cm） 年代不明

（註） 岡宮光長寺蔵本尊の木版刷

10 聖徳太子御影 一幅（八四・八×二七・三cm） 年代不明

(左下) 土家先位藤原允広筆

11 佐渡塚原三昧堂図 (木版刷) 一幅 (五四・〇×二三・二 cm) 年代不明

12 七面天女画像 (木版刷) 一幅 (五一・六×一七・四 cm) 年代不明

13 小林由太郎先生画像 一幅 (二〇〇・四×三六・四 cm) 年代不明

【絵馬関係】

1 日蓮聖人御一代記奉納額 四十四面 明治時代

(六〇・〇×三六・五 cm) (外径六七・〇×四三・三 cm)

東海道沼津歌川運斎国秀画

納主 納額発願者 当所 室伏小三郎

(註) 表の44のみ 三七・四×五九・二 cm



絵馬「日蓮聖人御一代記」龍ノ口法難

車返靈場関係資料（望月真澄）

表 日蓮聖人御一代記奉納学

番号	場面	題名	字名	納主	備考
1	誕生	房州小湊に於て高祖御誕生種々の奇瑞顕るるの図	当所	志村宗平	
2	幼少	高祖幼稚の時朋友に対し無益の殺生をいましむるの図	当所	渡邊儀三郎	
3	清澄入山	高祖父に供なわれ清澄山に始めて御入学する路次の図	当所	室伏熊次郎	
4	出家	高祖清澄山ニ於て御剃髪名を運長と給うるの図	当所	勝又元吉	
5	清澄山	高祖清澄山本尊虚空蔵菩薩に智恵を折り給ふの図	当所	大庭由市	
6	清澄山	高祖清澄山に於て諸経と法華経の勝劣を述□給ふの図	当所	志村久四郎 今井健蔵 大庭徳蔵	
7	比叡山	高祖叡山ニ於て大衆に向ひ□天台の「」	当所	渡邊「」	
8	比叡山 三十番神	高祖叡山御修行之節三十番神御山現し給ふの図	当所	藤森吉蔵 大庭徳次郎 藤森清次郎	
9	関西遊学	高祖京都に出て大学三郎の館に於て仏道儒道一なる事を論するの図	泉村	本杉栄三郎 同 萬蔵 山本豊治郎 同 仙太郎 同 茂太郎 西村文吉 本杉由蔵	納主部分破損
10	関西遊学 磯長叡福寺	磯長叡福寺聖徳太子の御墓に詣て法運を祈り給ふの図	公文名		
11	冷泉家	高祖敷島の道を学を学ばんとて冷泉為家卿の館を問ひ案内を乞うの図	当所	室伏政□	

番号	場面	題名	字名	納主	備考
12	伊勢妙見尊	高祖伊勢大神宮參詣之節淨明寺ニ於て妙見尊出現の図	当所	室伏共一	
13	清澄立教開宗	高祖清澄山ニ於て朝日に向ひ始めて題目を唱へ給ふの図	須釜	勝又傳藏	
14	松葉ヶ谷	鎌倉松葉ヶ谷の御草庵に辨阿闍梨来り始めて高祖乃弟子となるの図	当所	勝又長	
15	富木殿と船	高祖富木殿の船を頂き同舟して法華之宗意を述んとするの図			納主破損
16	一切経閲覽	高祖始めて鎌倉に在て鶴ヶ岡の経蔵に入り一切経を拝するの図	当所	室伏やす	
17	一切経閲覽	高祖駿州岩本実相寺に來り一切経を御閲覽なされ安國論を御製作の図	当所	志村清吉	
18	伯耆坊入信	高祖岩本より御船鎌の路次伯耆坊来り御弟子と成の図	当所	室伏とめ	
19	安國論進言	高祖安國論を作り宿屋光則を以て北條時頼公へ献覽し給ふの図	当所	室伏「」	
20	松葉ヶ谷法難	松葉ヶ谷の御庵室を焼き打ちに逢い高祖も三王山に遁れ給ふの図	豆州田方郡 北狩野村田 原郷	西嶋たき	
21	病氣平癒	高祖朝高の病ひを祈りし全快せしにより黄金仏を献じ給ひし図	新田	川嶋てつ 藤森しげ	
22	立像釈迦仏	不明			
23	悲母蘇生	高祖焔国せし時御母君死去なされしを祈念せしに蘇生するの図	佐野	飯田敬□ 吉岡清太郎 鈴木嘉十郎	

車返霊場関係資料(望月真澄)

番号	場面	題名	字名	納主	備考
24	小松原法難	東条小松原に於て景信高祖を打殺さんとせしに景信天罰を蒙るの図	当所	渡邊富蔵 今井紋四郎 大庭與三郎 大庭由五郎 大庭豊七 山田□□□	
25	小松原法難	高祖小松原の大難を遁れ山に宿した老母錦を献じ給ひしの図	原	勝又銀平	
26	両親得度	高祖御両親を得度なさしめ再び鎌倉へ御発足するの図	市場	小林「」	
27	横須賀米ヶ濱	高祖相州米が濱にて舟よりあがり栄螺の角を折らんとするの図	当所	渡邊甚作	
28	雨乞祈禱	高祖田邊ヶ淵に於て雨を祈りしに忽ち降り出し諸人歎ひ給ふの図	当所	勝又辰蔵	
29	龍口法難	高祖龍の口ニ於て頸を「」其頸の□太刀折れ給ふの図	当所	志村弥十郎	
30	星降り	高祖鎌倉より依智に移りたるの夜明星天子梅の小□に降り給ふの図	当所	武井茂十郎	
31	佐渡波題目	船中大風起□に波に題目を書し忽ち風治まる図	当所	大庭寅吉	
32	受茶羅図類	高祖始めて十界勧請の大受茶羅を御画遊ばし給ふの図	上丹	小林平□ 小林亀吉 土屋忠作 早川兵吉 勝又岩蔵 勝又さよ 勝又く	
33	北条時宗 赦免	北條時宗病中に不審の夢に感じ高祖に赦免之事を下知するの図	須釜		



車返靈場關係資料(望月真澄)

【仏具關係】

1 燭台 一對(総高六〇・五cm)

(陰刻) 小山町

一心講一同

(箱書) 駿東中部大題目講中 七

御燭台入箱

昭和貳十四年九月吉日

【金石文關係】

1 供養塔 一基

(正面) 文化十一戊年

奉百香供養塔

十一月造立

2 題目塔 一基

(正面) 高祖大士 文永十一年五月十四日

弘安五年十月十三日池上「」

詣主



1. 燭台(下部)

当所

南無妙法蓮華經 日蓮 (花押)

室伏安平

妻そめ

文信居士謹写

奉供養 高祖御靈場並壹千余箇寺往詣満歸之時建立之

(側面) 明治三十六年十月二十六日

3 墓塔 一基

(正面) 元文四

当寺八世順運社相營□□□

十二月十九日

4 墓塔 一基

(正面) 宝曆十二

珠光法□信女

十二月二十二日

霊

車返靈場関係資料 (望月真澄)



祖師堂と境内

車返靈場關係資料(望月真澄)

妙休禪定尼

5 墓塔 一基

(正面) 享保十

早世

六月十八日

6 寺号塔 一基

(正面) 日蓮聖人車返靈場

(背面) 昭和五十六年八月二十五日

7 題目塔 一基

(正面) 南無妙法蓮華經

(背面) 日蓮聖人車返靈跡

当地ハ文永十一年五月十四日宗祖大聖人鎌倉ヨリ身延へ御入山ノ途次宿泊セラレタル靈跡ナリ。明応年間堂宇再建ノ上原山最復寺ト称ス。明治中末葉ニハ三島本覺寺ノ所轄トナリン事アリ。長年月ニ互リ近隣信徒力ヲ合ワセ護持丹誠シテ今日ニ及ブ。第七百遠忌ノ嘉辰ニ当リ茲ニ謹ンテ讚仰渴仰シ、以テ御報恩ニ擬シ奉ル。

昭和五十六年八月二十五日 日蓮宗静岡中部宗務所



祖師堂内陣